特別企画

地域包括の視点で行う「尊厳を取り戻す」排泄ケア

個人の尊厳にかかわる重大な意味をもつ排泄ケアですが、日々の業務のなかでは、ともすれば機械的なケアになることがあるかもしれません。利用者の生理的欲求を満たし、人生に希望の光をもたらす排泄ケアを実現するために必要な視点を、長年地域に密着した排泄ケアを実践され、ケア従事者に向けた知識向上の取組もされている榊原千秋さんに解説していただきます。

はじめに

赤ちゃんから高齢者まで、病気があっても障がいがあっても誰もが「気持ちよく排泄できる」ため、2015年に石川県小松市で、「うんこ文化センターおまかせうんチッチ」を創設しました。「とことん当事者」「人として出会う」「自分ごととして考える」「十位一体のネットワーク」を理念にプライマリヘルスケアのまちづくりを目指しています。

排泄に困難を抱えた人が、課題を解決するためには、地域包括的な取り組みが必要です。小松市では「コンチネンスケア先進都市こまつ」（**図1**）を掲げ、ケアマネジャーを含むコンチネンスケア検討委員会を設置。「地域包括的コンチネンスケアシステムの確立」を目指し、地域で共通の排泄ケアツールを活用し、地域住民への広報や教室、排泄相談窓口の設置、排泄相談に対応できるコンチネンスパートナーの人材育成を行っています。また、おまかせうんチッチでは「POOマスター養成研修会」と「排尿のコンチネンスケア」を開催し、排泄ケアを基軸にした地域包括的人材を養成しています。本企画を通じて、ケアマネジャーのみなさまに、排泄ケアを地域包括的視点で捉えていただきたいと思います。

1. 排泄と尊厳

「下の世話になりたくない」という言葉に代表されるように、排泄ケアは人が人として大切にされる尊厳に大きく影響します。「気持ちよく出す」ためには、適切なアセスメントを行い、適切な排泄ケア方法が選択でき、ケアを継続的に組み立てることができる知識や技術が求められます。一方、「気持ちよく出す」ことは、排泄の主体を本人に取り戻すケアでもあります。プライベートな行為でありながら、ケアマネジメントと出会うと出すことに主軸が移り「排泄管理」、「排泄コントロール」という言葉での支配がはじまります。排泄ケアは、自立の支援。ケアマネジャーは、ケアを受ける本人がどのような状態になりたいかをセルフマネジメントし、セルフケアする方法を、共に明らかにしていくことを助けるパートナー的役割を果たす存在となっていただきたいと願っています。

執筆 ▶ 榊原 千秋
うんこ文化センターおまかせうんチッチ代表
訪問看護ステーションややのいえ統括所長
一般社団法人日本うんこ文化学会代表理事
NPO法人ホームホスピスこまつ理事長
保健学博士　保健師　助産師　看護師
コンチネンスアドバイザー

愛媛県宇和島市出身。愛媛県立公衆衛生専門学校卒業後、町役場や在宅介護支援センターの保健師、介護支援専門員を経験し、2005年金沢大学大学院地域看護学の助教・講師を経て、2015年に「ちひろ助産院」「合同会社プラスぽぽぽ」を立ち上げて独立。同時に「コミュニティスペースややのいえ」を開設、2018年に「コミュニティスペースとんとんひろば」2022年にホームホスピス「もう一つの家ややさん」を開設し現在に至る。